

内外交差点

日本のタクシーは高いのか？ 「でんでらりゅうば」に考える

岩村 龍一氏 (コミタモビリティサービス会長) 第5/12回

前回、前々回とベトナム、韓国の海外の話が続いたが、相変わらず風来坊の私は旅を続け、今月は日本の南にある離島へ出かけた。お前、仕事してるのかって？心配ご無用、今や大概のことは端末一台で用が済む。会社に行って何も仕事をしないより数倍良い。なんといっても社員が喜ぶのである。

さて、この離島、周囲約60キロという小さな島だが、タクシーはちゃんと稼働しており、島の交通インフラとして機能していた。少ない人口の島では、路線バスよりタクシーである。ただ、考えさせる場面があった。島の友人宅でBBQをする話が持ち上がり、ホテルから少し島の外れにある友人宅までのタクシー運賃を事前に調べてみると、二の足を踏むような金額だった。往復小1万円もするのである。自らがタクシー支援をする立場にありながら、誠に不適切。そう、ニッコリ笑って釣りは要らねえというのが本来あるべき姿なのだが、悲しい貧乏人の性か、思わず高いなあと思ってしまったのである。そういえば昔、うちの常連のおばあちゃんが「嫁の手前、タクシーは週2回まで」と言っていたことを思い出す。タクシー運賃は高く、贅沢品だと言う。どうやらこの意識が、日本人の一般的な感覚なのかも知れない。悲しいかな私の中にもあるらしい。日本のタクシーは本当に高いのか？改めて考えさせられたのである。

何故、日本人はタクシー運賃を高いと思うのか。その根拠は、他の商品サービスと比較することが最も考えられるが、確かにバス、鉄道と比べると桁が一つ違う。ランチと比べても少し割高感があるかも知れない。しかし、女性の通うパーマ屋さん（昭和の表現で失礼）と比べればタクシーの方が割安感はあるのではないかと。キャバクラなんかで鼻の下を伸ばせば大枚が飛んで行くし、ブティックとかいう所で売っているご婦人のブラウス1枚の価格をご存じか？大半のお父さんは卒倒すると思う。いやいや、こんな話をすればキリがないな。商品サービスの価格は、需要と供給、つまりどうしても欲しい人に

とっては、高いも安いもないのかもしれない。

さて、突然だが、「でんでらりゅうば」という長崎のわらべ歌をご存じだ

ろうか。先日、偶然SNSで知り、面白い歌だなあと興味がわき、意味を調べたら驚いた。「でんでらりゅうば／でてくるばってん／でんでられんけん／でてこんけん／こんこられんけん／こられられんけん／こーんこん」という歌詞であるが、「出て行けるものであれば、そちらに出て行くけれど、出られないので、出て行けないので、そちらには行けないので、行けないので、そちらには行けません、行きません」という意味だという。こりゃタクシー屋魂を揺さぶる歌詞じゃ！電話一本でお迎えに行きますがな～、出て行けんなんて言わんと、ぜひ出かけて下さい！と叫びたくなった私である。

一説には、丸山遊郭の遊女の歌が発祥という説があるので、出て行けない理由が特別なものだったかも知れないが、タクシーなら、冷暖房完備の清潔な車両で親切なドライバーが笑顔でお迎えに参ります！なのである。そうだ、タクシーは、あなたのために、あなただけのために、あなたの望む場所からあなたの望む場所まで、快適に安全かつ迅速にお連れするサービスなのである。これってすごくない？他のサービス業が東になってかかってくるでもそうそう負けないサービスだけ。そう、日本のタクシーは決して高くない、それに見合うサービスを提供しているのではないかと、タクシー屋自身ももっと自覚しなければと思うのである。

もちろん、いくらサービスが良くてもモノの値段には限度がある。庶民感覚で手が届くものが望ましいことは言うまでもない。距離と時間で計算しタクシーメーターに映し出すしくみは、もう限界に来ているようにも思う。タクシー運賃にはもっと様々な工夫や知恵が盛り込まれて、ITを利用して大胆な改革があっても良いと思う。ダイナミックプライシングも当然必要だろう。「忙しい時にお客様の足元を見る」のではない、逆だ。暇なときにお安く使っていただく方法だと考えれば、少し違ってくのではないかと。売り値を自分で決められる商売の方が真っ当な気がするのだが。

